

## ●指揮● 山本 訓久 (やまもとのりひさ)

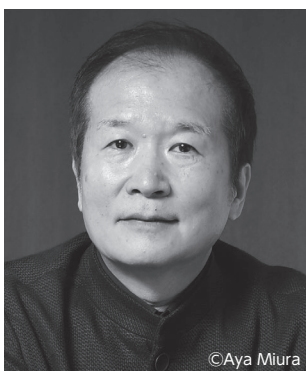
国立音楽大学卒業、東京藝術大学大学院音楽研究科修了。ウィーン音楽大学指揮科に学ぶ。

指揮をU.ライオヴィッツ、山岡重信、高階正光、和声を新実徳英、ユーフォニアムを三浦徹、大石清、トロンボーンをK.ヤイトラー(ウィーン・フィル)の各氏に学ぶ。2002年に新しいコンセプトによる金管楽器のグループ「アンサンブル・ペガサス トウキョウ」を結成し、これまで国内で10回の定期演奏会の他にチェコ、オーストリア、ノルウェー、スウェーデンで数多くの音楽祭等に招かれる。ヨーテボリ大学とオスロ音楽院では「古楽奏法」に関する公開セミナーも行った。2008,2012および2014年にはアンサンブル・ペガサス トウキョウでドイツ演奏旅行を行ない、好評を博した。2007年、ルーマニアのバカウ市立管弦楽団(M.ヨーラ・フィルハーモニカー)に招かれ定期演奏会および特別演奏会を指揮した。

東京ウィンド・シンフォニカ(在京プロ演奏家による吹奏楽団)では既存の吹奏楽作品の演奏にとらわれず、ゴセック、フンメル、M.ハイドン等の作品を当時の楽器を取り入れて、古楽奏法を用いて演奏し注目を集めている。吹奏楽のために書かれた現代の作品としては新実徳英：「神はどこに？」(2016.9.)を初演した。

またウィンドギャラリーから刊行されているJ.シュトラウス・ファミリーの編曲作品の一部は、ザルツブルク音楽祭においてウィーン・フィルのメンバーを含む演奏団体によって演奏されている。

現在、東京学芸大学教授、国立音楽大学講師、東京ウィンド・シンフォニカ音楽監督、アンサンブル・ペガサス トウキョウ代表。著書：新版『学ぼう指揮法StepbyStep』(アルテスパブリッシング刊)『ブルクミュラーで指揮法入門』(アルテスパブリッシング刊)CD：“AFlourishofBrass”「ブラスの花束」(MusicaResidiva,Sweden:MRSDCS-019)山本訓久編曲/指揮アンサンブル・ペガサス トウキョウ「ホルスト：組曲第1番(原典版)ほか」(CrystonOVCC-00083)山本訓久指揮東京ウィンド・シンフォニカ吹奏楽編曲：G.マーラー「アダージョ・愛が私たちに語るもの」L.v.ベートーヴェン「軍隊行進曲ニ長調」、R.シュトラウス「祝典行進曲」、J.シュトラウス「美しく青きドナウ」「ハンガリー万歳!」「アンネン・ポルカ」「クラブフェンの森にて」、J.シュトラウス(父)「ラデツキー行進曲」「愛すべきアンネン・ポルカ」、ヨーゼフ・シュトラウス「とんぼ」「鍛冶屋のポルカ」F.レハール「金と銀」K.M.ツィーラー「ウィーン市民」ほか多数。(出版：ウィンドギャラリー)



## ●ピアノ● 椎野 伸一 (しいのしんいち)

東京藝術大学を経て1981年同大学院修了。この間「安宅賞」を受賞、藝大オーケストラと協演。谷 康子、ヴァレリア・セルヴァンスキの各氏に師事。1983年東京イイノホールにてデビューリサイタル開催後、全国各地でリサイタルを行う。また東京交響楽団、東京シティ・フィル等とベートーヴェンの「ピアノ協奏曲第1、3、4、5番」などを協演。1996年にはピアノデュオグループ「グラン・デュオ」を結成し、以後東京紀尾井ホールにて定期的にソロリサイタル・デュオリサイタルを開催している。

2013年、2015年、2018年にはソロCDアルバム「Images de Paris」、「Images de Paris II」、「Images de Paris III」を次々リリース。新聞、各音楽雑誌等で紹介され、フランス近代音楽のピアノ演奏芸術において世界的に見ても最高峰の一角との高い評価を受ける。2022年にはシューベルトとシューマンのピアノ作品によるCD「ベートーヴェン・コネクション」を発表し高い評価を受ける。(以上グリーンフィンレコーズ <https://www.facebook.com/greenfinrecords>)

また、室内楽奏者としても国内外の著名な演奏家と多数のキャリアを積み、器楽・声楽のリサイタル伴奏、CD録音、音楽祭への参加、放送出演など活動は多岐にわたる。

1986年より35年間東京学芸大学に奉職。東京学芸大学名誉教授。現在は、音記録を次世代に---のちの世代にまで届ける仮想的な「音のミュージアム」---を理念とする NPO法人ロングタイムレコーダーズ (<https://longtime.jp/>) の代表理事としても活動している。

## ●合唱指揮● 柳嶋 耕太 (やなぎしまこうた)



合唱指揮者。ドイツ・ザール音楽大学指揮科卒業。2015年にドイツ音楽評議会・指揮者フォーラム研究員に選出され、ベルリン放送合唱団、北ドイツ放送合唱団をはじめとするドイツ国内各地の著名合唱団を指揮。2017年秋完全帰国。以来、vocalconsort initium、室内合唱団 vox alius、横浜合唱協会をはじめとする多数の合唱団で常任指揮

・音楽監督を務める。オルケストル・アヴァン=ギャルド、プロムジカ使節団などの新進気鋭の古楽オーケストラとも指揮で共演するほか、(株)コーラスカンパニー主催の合唱指揮講座講師を務めるなど後進の育成にも力を入れる。合唱指揮をゲオルク・グリュン、指揮を上岡敏之の各氏に師事。ヴォーカル・アンサンブル カペラ、エマルシオンなどに所属するアンサンブル歌手としても活動を広げる。

## ●合唱指揮● 谷 郁 (たにかおる)



国立音楽大学声楽科を卒業後、合唱指揮を学ぶために渡欧。ウィーン国立音楽大学指揮科を経てグラーツ芸術大学大学院合唱指揮科を修了。現在は日本で首都圏を中心に幅広く活動している。

Tokyo Cantatにおける第5回及び第6回「若い指揮者の為の合唱指揮コンクール」いずれも第2位。ポーランドで行われた第7回合唱指揮コンクール「Towards Polyphony」では審査員特別賞及び、ベストパフォーマンス賞

を受賞。さらにポーランドのプロ合唱団NFM Choirから客演指揮者として招聘を受けるなど、国内外で高い評価を得ている。

これまでに合唱指揮を花井哲郎、Erwin Ortner (エルヴィン・オルトナー)、Johannes Prinz (ヨハネス・プリンツ)の各氏に師事。新しい演奏動画配信の場を提供するウェブサイト initium;auditoriumを主宰。

vocalconsort initium、Hugo Distler Vokalensemble、Tokyo Bay Youth Choir、男声アンサンブル聲、常任指揮者。他、客演指揮及び指導合唱団多数。